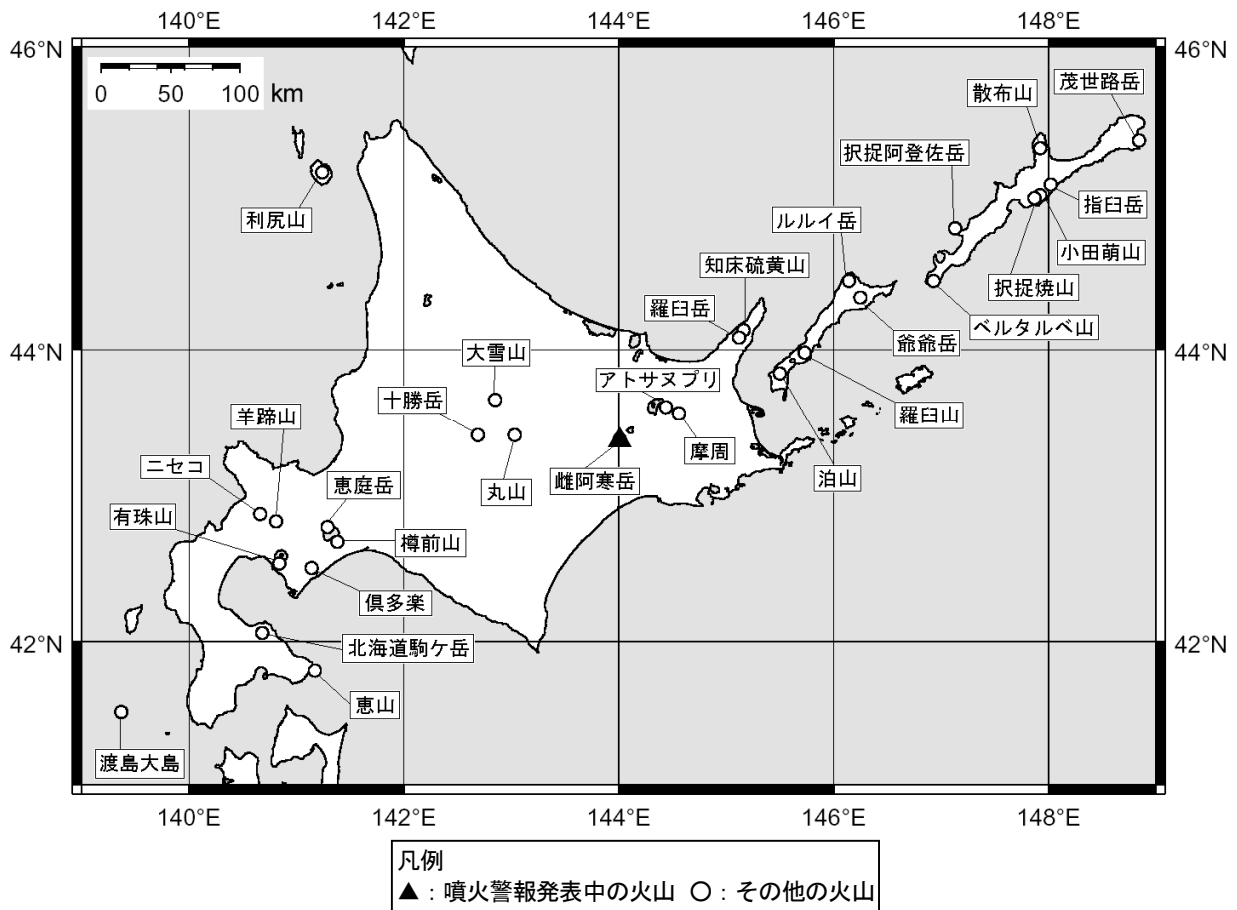


管内月間火山概況（平成 20 年 12 月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（12月31日現在）

火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）	：雌阿寒岳
噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）	：十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳
（平常）	：知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ペルタルペ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入しています。

この管内月間火山概況は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 21 年 1 月分）は平成 21 年 2 月 6 日に発表する予定です。

この資料は気象庁の他、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道、北海道立地質研究所及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。

各火山の活動及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

平成 20 年 12 月 16 日に噴火警戒レベルの導入に伴い、雌阿寒岳では火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を、十勝岳では噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。火山の活動状況に変更はありません。

その他の火山については予報警報事項に変更はありません。

雌阿寒岳 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

雌阿寒岳では11月28日から29日に発生したごく小さな噴火以降、新たな噴火は発生していません。

火山性地震の一時的な増加や火山性微動が時々発生し、ポンマチネシリ火口の噴煙活動はやや活発な状態で推移するなど、火山活動は引き続きやや高まった状態が継続しています。

今後しばらくの間は、ごく小さな噴火を繰り返す可能性がありますので、ポンマチネシリ火口から 500m 程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

十勝岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

GPS 観測によると、2006 年以降 62-2 火口付近では浅部の膨張を示すと考えられる局所的な地殻変動が継続しています。

火口付近の地震活動及び 62-2 火口等の噴煙活動や熱活動は低調に推移していることから、ただちに火口周辺に影響を及ぼすような噴火に結びつくとは考えていませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

A 火口及び B 噴気孔群では高温の状態が続いていると推定されます。山頂火口原内の溶岩ドーム及びその近傍では、火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要です。また、2006 年以降みられている溶岩ドーム付近浅部の膨張を示すと考えられる局所的な膨張が継続していると推定されます。

地震活動や噴煙活動は静穏で、広域の地殻変動も観測されておらず、ただちに火口周辺に影響を及ぼすような噴火に結びつくとは考えていませんが、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

倶多楽 [噴火予報（平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

恵山 [噴火予報（平常）]

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。